

経営比較分析表（令和5年度決算）

神奈川県厚木市 市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
条例全部	病院事業	一般病院	300床以上～400床未満	民間企業出身
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	27	対象	透I訓ガ	救臨感災地
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	不採算地区中核病院	看護配置
223,940	32,585	非該当	非該当	7：1

※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
341	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	6	347
最大使用病床（一般）	最大使用病床（療養）	最大使用病床（一般＋療養）
329	-	329

グラフ凡例		
■	当該病院値（当該値）	
—	類似病院平均値（平均値）	
【	令和5年度全国平均	

経営強化に係る主な取組（直近の実施時期）

機能分化・連携強化 (従来の再編・ネットワーク化を含む)	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

I 地域において担っている役割

厚木市立病院は、平成15年4月に神奈川県から経営移譲を受け開設し、厚木市及び愛川町を中心とした県央地域の公立の基幹病院として、地域の医療機関との連携を推進するとともに、急性期を中心とした二次医療の提供や、専門性に基づく高度医療の強化に努めています。

また、第二種感染症指定医療機関としての役割のほか、救急・小児・周産期・災害などの政策的医療の提供も併せて行っています。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

効率性では、入院患者1人1日当たり収益が引き続き平均値を上回っている一方で、外来患者1人1日当たり収益は、平均値との差が開きました。外来単価の向上は課題の一つであると捉えており、更なる紹介・逆紹介の推進に努めます。

健全性では、経常収支比率は4年連続で100%を超え、医療収支比率は入院収益の増加により10年ぶりに90%を超えるなど、健全化に向けて前進しました。一方で病床利用率については平均値を上回ったものの、当院の目標値を下回っています。また、人件費の増加や物価の上昇により医療費用が増加傾向にあり、今後も更なる増加が予想されます。病床利用率及び外来単価の向上により医療収益を拡大し、更なる経営強化を図る必要があると考えます。

2. 老朽化の状況について

平成29年12月に病院建替えが完了し、有形固定資産減価償却率は、平均値を下回っています。

一方で、器械備品減価償却率は、新病院の整備に伴い更新した医療機器等の償却が進んでいることが示されています。

1床当たり有形固定資産は平均を上回っていることから、当院の規模と役割に見合った中で、医療機器等を計画的に更新していく必要があります。

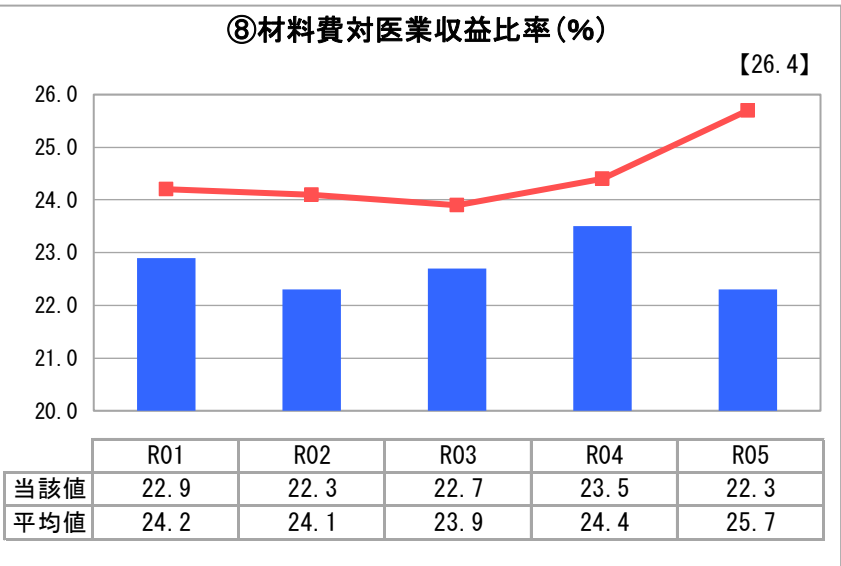
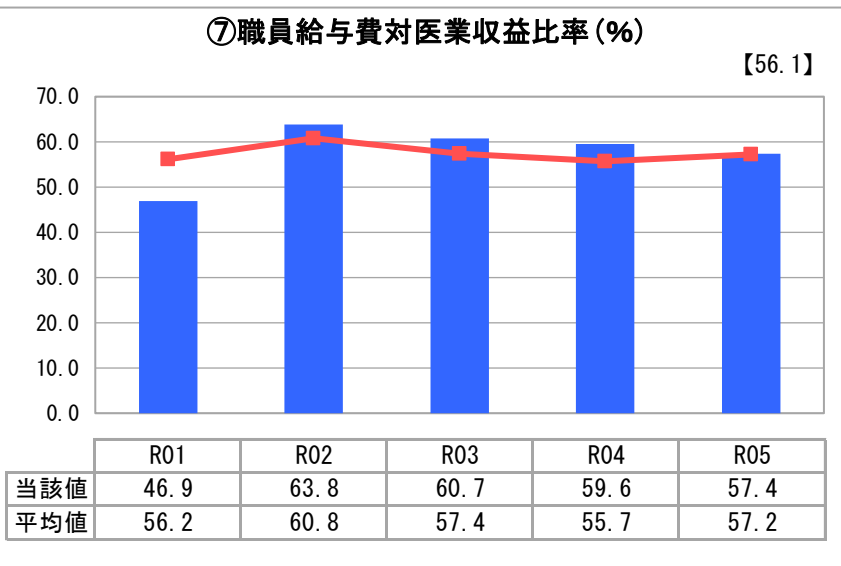
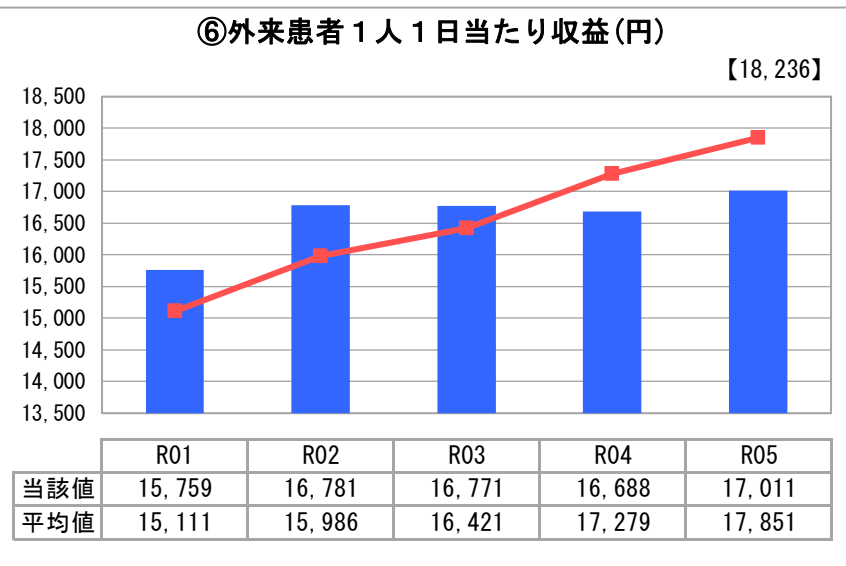
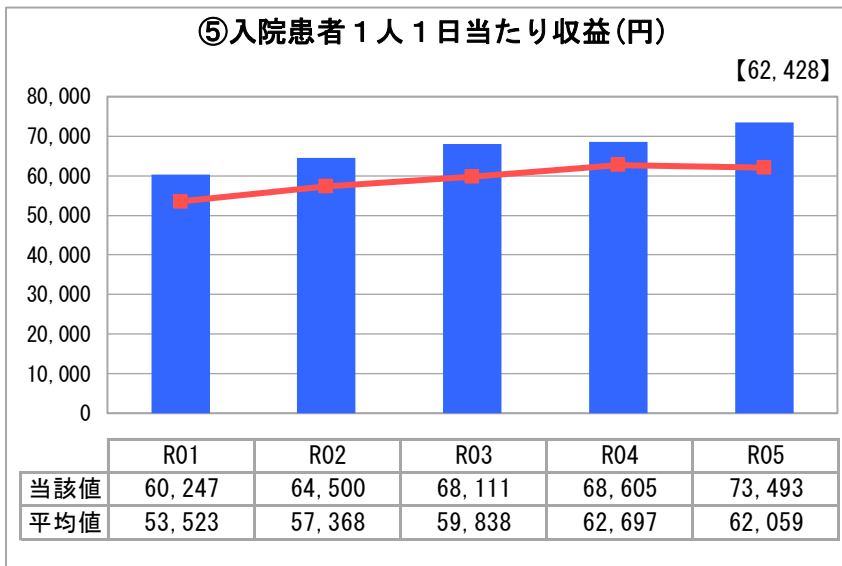
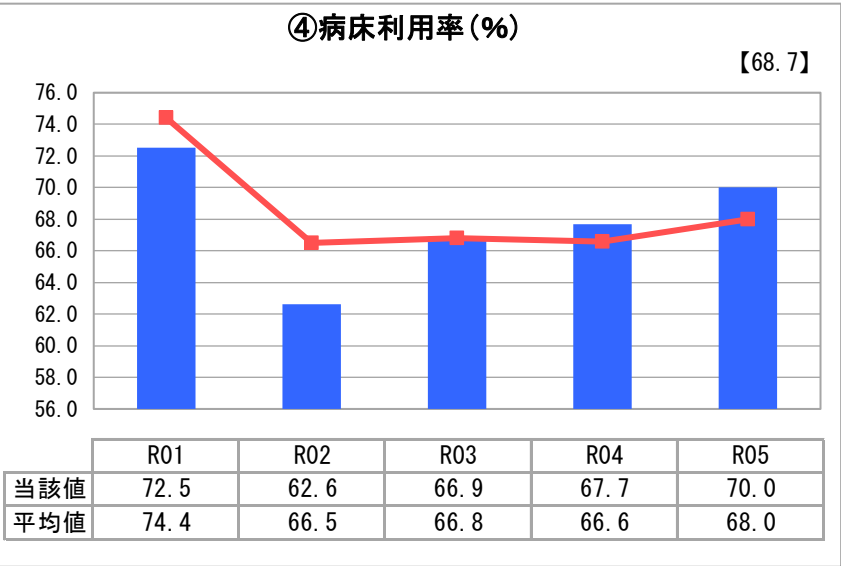
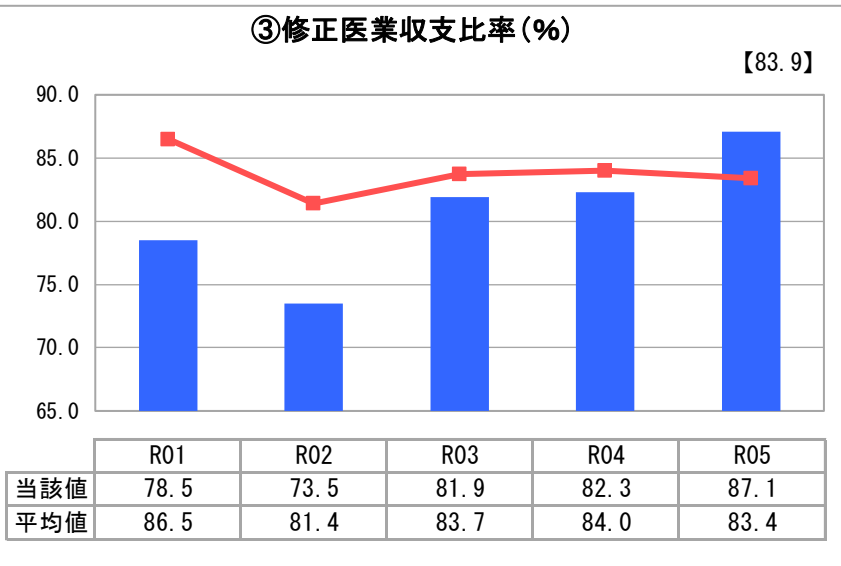
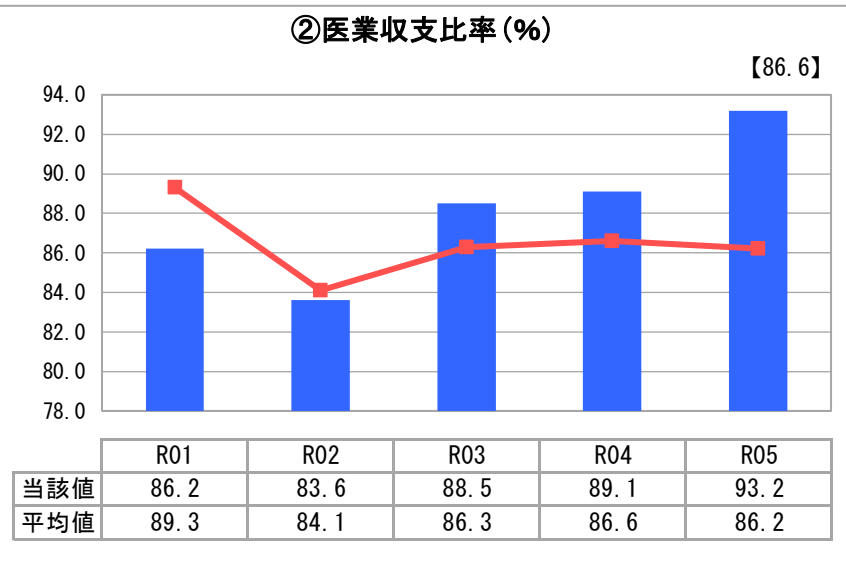
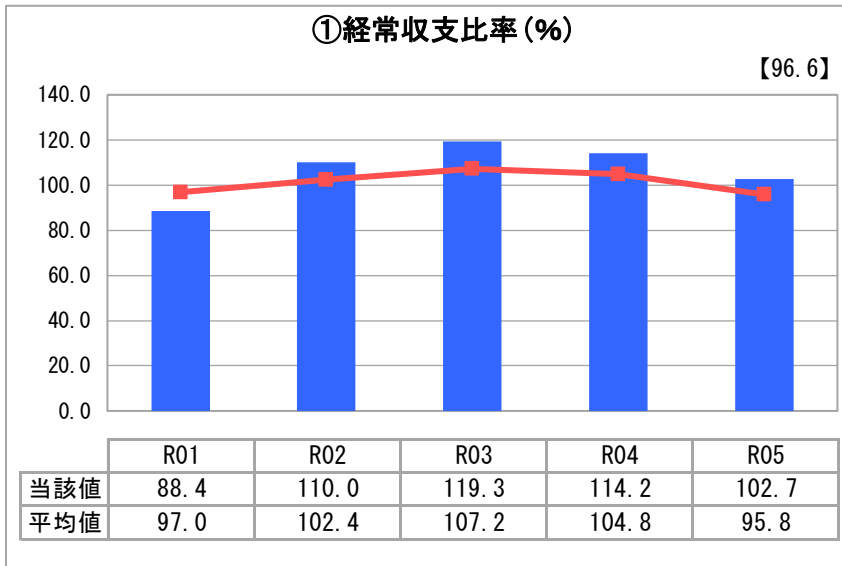
全体総括

令和5年度は、アフターコロナにおける病院運営が本格化しました。しかしながら、入院患者がコロナ前に比べて減少していることに加え、物価や賃金の上昇による費用の増加が避けられない状況であり、診療報酬という公定価格で運営する病院においては、非常に厳しい病院経営が求められました。

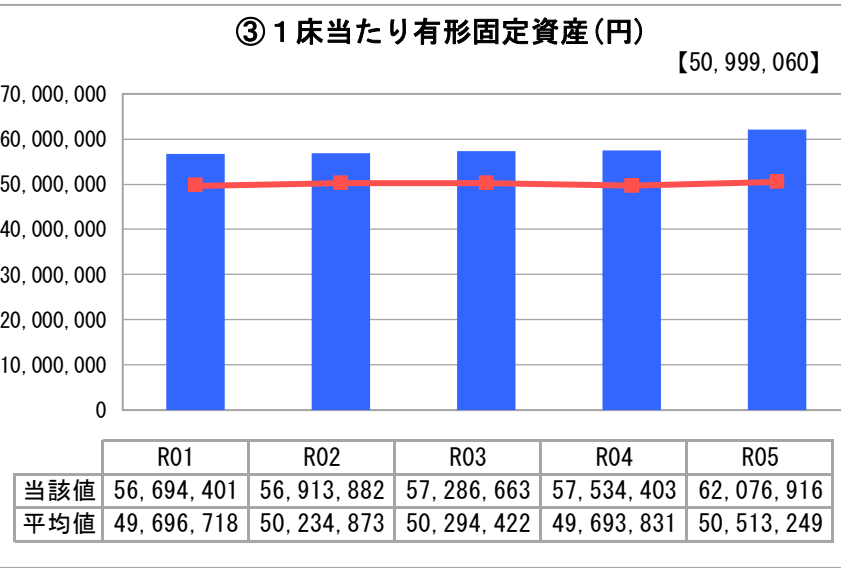
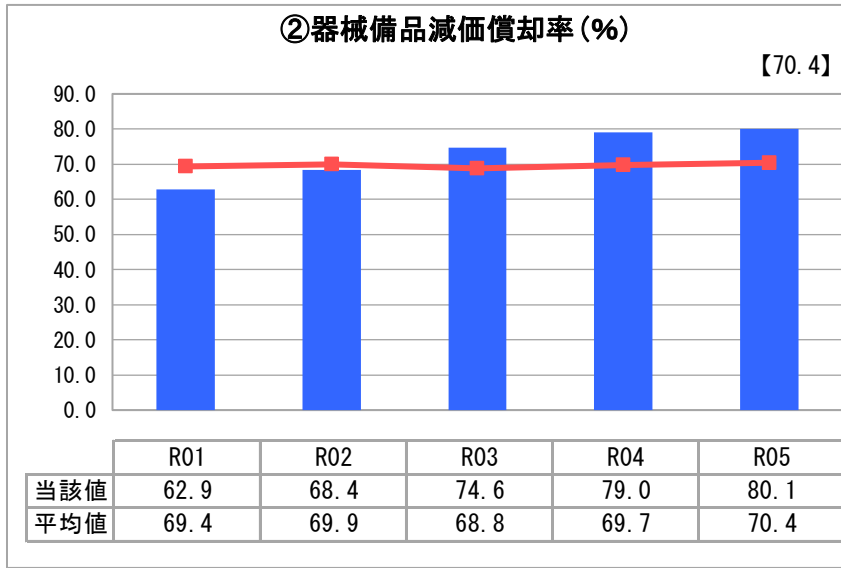
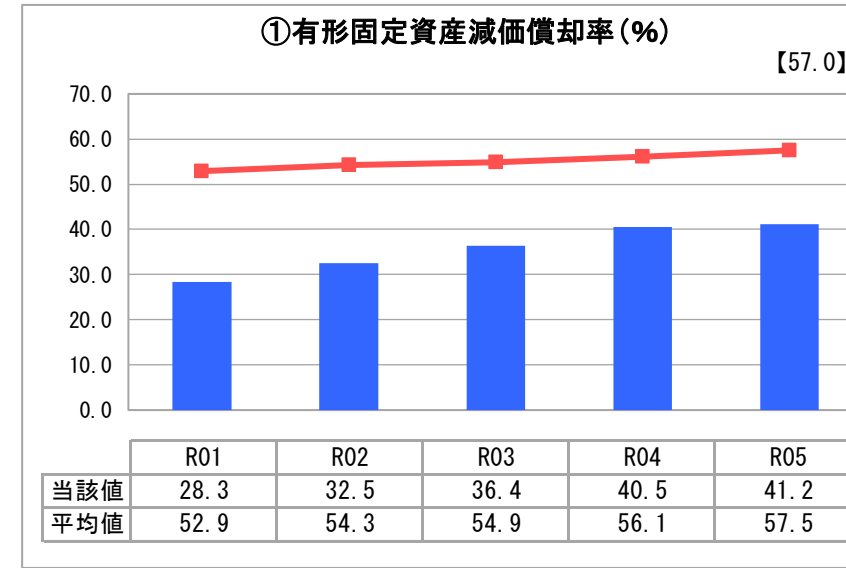
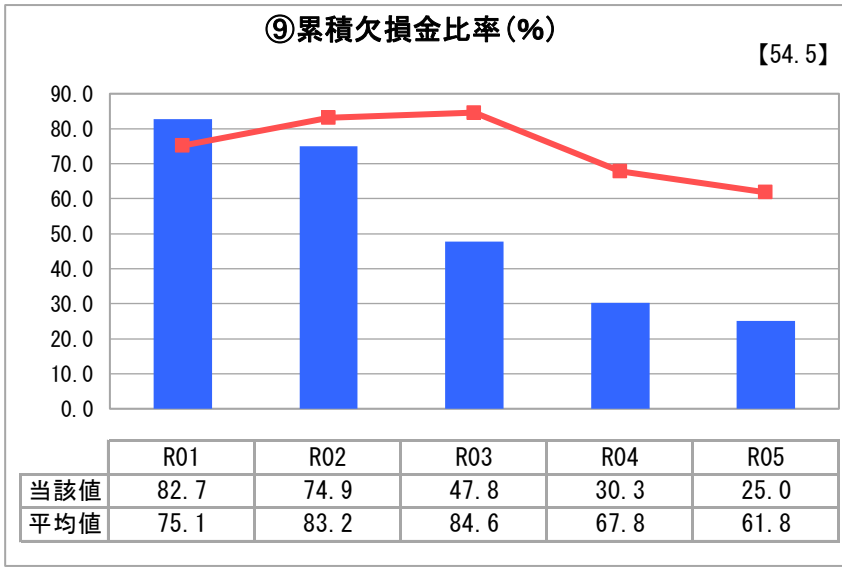
このような状況下において、救急搬送件数や手術件数の増加により入院単価を向上させ、過去最高の入院収益を達成することで、4年連続の黒字決算となりました。

課題となっている、病床利用率及び外来単価の向上により医療収益を拡大させるため、救急医療体制を拡充するなど、持続可能な健全経営に向け、引き続き、経営強化を推進していきます。

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。